

## 試行の情報

# ゴールキーパーによる長過ぎるボール保持: 制限時間を8秒に延長、反則には別の再開方法

### 背景

第12条では、ゴールキーパーがボールをプレーに戻す前に、手や腕で6秒までボールをコントロールすることを認めている。ゴールキーパーがボールを長時間保持することは時間の浪費のみならず、不公平な戦術でもある。なぜなら、ゴールキーパーが、手や腕でボールをコントロールしているときにゴールキーパーにチャレンジすることができないため、相手チームにはボールを取り戻す可能性がない。この行為は、しばしば、観客のフラストレーションにもつながる。

ゴールキーパーが手や腕で6秒を超えてボールをコントロールした場合、間接フリーキックで罰せられる。ただし、主に次のような理由により、この罰則が主審によって確実に施行されることはほとんどない。

- ペナルティーエリア内での間接フリーキックの管理は、非常に難しいことが多い。特に、間接フリーキックがゴールから9.15メートル(10ヤード)、またはより近い距離から行われ、守備側競技者がゴールポスト間のゴールライン上にいなければならないときである。
- 間接フリーキックからは得点の可能性が高いため、反則していないチームにあまりにも大きな利益を与える一方で、反則していないチームはボールを保持していないため、反則となったときに得点の可能性はないと感じる人もいる。

ゴールキーパーは時間を浪費し、ボールをプレーに戻すことを遅らせ、チームがボールを失うリスクを減らすために6秒を超えてボールを保持する。したがって、(その行為が)反則となりボールを失うことは、強力な抑止力となる。その結果、相手チームに大きすぎる利益を与えること無く、ゴールキーパー(とそのチーム)がボール保持を失うこととなる再開方法と組み合わせて、ゴールキーパーによる長時間のボール保持を禁止することを秩序建てて実施することが、この反則を排除し、またその頻度を減らすことに効果的となりうる。

第12条は、6秒の制限がいつ始まるのかを定義している。

ゴールキーパーがボールを手(や腕)でコントロールしていると判断されるのは、次のときである:

- ボールがゴールキーパーの両手で持たれているとき、またはボールがゴールキーパーの手(や腕)と他のもの(例えば、グラウンド、自分の体)との間にあるとき、ボールに手や腕のいずれかの部分で触れているとき。ただし、ボールがゴールキーパーからはね返った、またはゴールキーパーがセーブした場合を除く。
- ゴールキーパーが広げた手のひらでボールを持っているとき。
- ボールを地面にバウンドさせる、または空中に投げ上げたとき。

分析から、ゴールキーパーがボールを保持したり放したりする際には、次の3つの典型的な状況があることがわかった。

- ゴールキーパーが攻撃を開始するために素早くボールをプレーに戻す。このような場合、通常、ゴールキーパーがボールを保持する時間は6秒よりはるかに短い。
- ゴールキーパーが攻撃を開始するためにボールをプレーに戻そうとするが、攻撃側の競技者が準備できていない、あるいはポジションにいない、または(どちらかのチームの)他の競技者がゴールキーパーの動きを妨害するなど、様々な正当な理由で(ボールをプレーに)戻すことができない。このような場合、通常、ゴールキーパーは約6~8秒間ボールを保持する。
- ゴールキーパーが時間を浪費することを決め、不必要にグラウンドに倒れ、そこにとどまってからゆっくり立ち上がることがよくある。このような場合、ゴールキーパーは6秒よりかなり長くボール

を保持し、時には20秒、またはそれ以上になることもある。

結果として、2つ目の状況に対応するために8秒の制限を試行することが提案されており、これは真にタイミングよくボールをプレーに戻したいのに、自身のせいでないにもかかわらず、それができないゴールキーパーを罰せずに済むという考えによるものである。

## 実施手順

### 再開方法

試行に参加する競技会は、すべての試合で次の再開方法のいずれか1つだけを使用することを選択しなければならない。

- コーナーキック
- スローイン(ペナルティーマークの延長線上から行う)

### 進め方

進め方は次のとおり。

- 主審は、ゴールキーパーがボールを手(や腕)で明確にコントロールしたとき、8秒のカウントを開始する。
- 主審は手を上げて、5秒から0秒までのカウントダウンを明確に示す(フットサルとビーチサッカーの4秒カウントのように)。
- 反則により相手チームに与えられるコーナーキックまたはスローインは、罰せられたときにゴールキーパーが位置していた場所に近いコーナーエリアまたはタッチラインから行われる。
- ゴールキーパーは最初の反則に対しては注意が与えられ、それ以降の反則には警告(イエローカード)が与えられる。

### 許可、実施体制およびフィードバック

この試行は、国内上位2つのリーグ、または各国の「A」代表のチームが関わらない競技会でのみ実施できる。

この実施手順のすべてに従わなければならない、IFAB の書面による承認がない限り、変更は認められない。

競技会主催者は、各国協会あるいは大陸連盟の(いずれか適切な方)を通じて、どの競技会が参加するかを示して、試行への参加許可をIFABに申請しなければならない、また、IFAB からその他の情報を求められる場合がある。

競技会主催者が確約した必須の事柄をすべて満たしていれば、通常、IFABは試行への参加を許可する。これには、試行の評価ができるようなフィードバック、および情報やデータの提供(IFAB からの要求があった場合)の要件が含まれる。

試行の詳細、または参加の申込みは [trials@theifab.com](mailto:trials@theifab.com) に問い合わせること。